

Ref. 1.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-304590

(43)Date of publication of application : 02.11.2000

(51)Int.Cl.

G01F 19/00

(21)Application number : 11-323077

(71)Applicant : SATO NOBUHIKO

(22)Date of filing : 08.10.1999

(72)Inventor : SATO NOBUHIKO

(30)Priority

Priority number : 11074243

Priority date : 15.02.1999

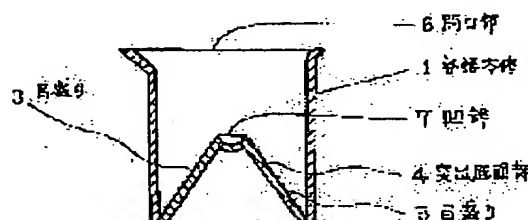
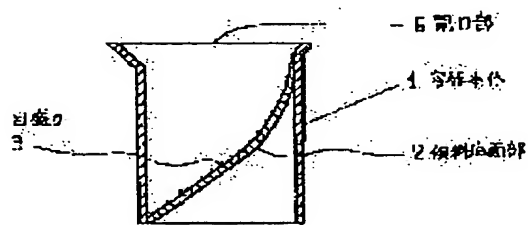
Priority country : JP

(54) MEASURING CUP

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To avoid pouring a liquid out of a measuring cup during pouring it into the cup by seeing scale divisions or avoid pouring the liquid excessively over a scale division by seeing the stream end of the liquid.

SOLUTION: A container 1 has an sloped bottom surface part 2 or an upward protruding bottom surface part 4 with scale divisions 3 marked on the sloped surface. A column directed from the peak of the protruding bottom surface part 4 to an opening 6 may be provided or this part 4 may be formed as a removable independent protrusion rising from the bottom surface.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.12.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 14.09.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2004-21216

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 14.10.2004

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Ref. 1.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-304590

(43)Date of publication of application : 02.11.2000

(51)Int.Cl.

G01F 19/00

(21)Application number : 11-323077

(71)Applicant : SATO NOBUHIKO

(22)Date of filing : 08.10.1999

(72)Inventor : SATO NOBUHIKO

(30)Priority

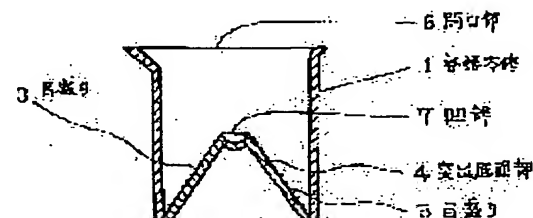
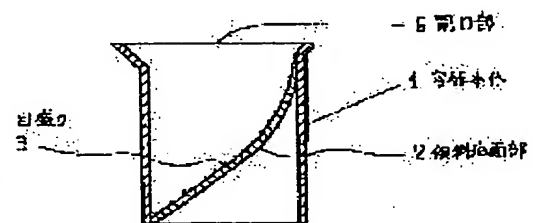
Priority number : 11074243 Priority date : 15.02.1999 Priority country : JP

(54) MEASURING CUP

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To avoid pouring a liquid out of a measuring cup during pouring it into the cup by seeing scale divisions or avoid pouring the liquid excessively over a scale division by seeing the stream end of the liquid.

SOLUTION: A container 1 has an sloped bottom surface part 2 or an upward protruding bottom surface part 4 with scale divisions 3 marked on the sloped surface. A column directed from the peak of the protruding bottom surface part 4 to an opening 6 may be provided or this part 4 may be formed as a removable independent protrusion rising from the bottom surface.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.12.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 14.09.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2004-21216

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 14.10.2004

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Ref. 1.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-304590

(43)Date of publication of application : 02.11.2000

(51)Int.Cl.

G01F 19/00

(21)Application number : 11-323077

(71)Applicant : SATO NOBUHIKO

(22)Date of filing : 08.10.1999

(72)Inventor : SATO NOBUHIKO

(30)Priority

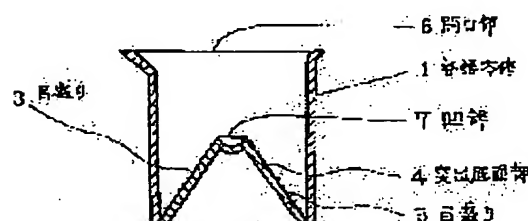
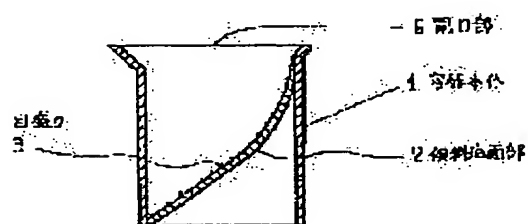
Priority number : 11074243 Priority date : 15.02.1999 Priority country : JP

(54) MEASURING CUP

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To avoid pouring a liquid out of a measuring cup during pouring it into the cup by seeing scale divisions or avoid pouring the liquid excessively over a scale division by seeing the stream end of the liquid.

SOLUTION: A container 1 has an sloped bottom surface part 2 or an upward protruding bottom surface part 4 with scale divisions 3 marked on the sloped surface. A column directed from the peak of the protruding bottom surface part 4 to an opening 6 may be provided or this part 4 may be formed as a removable independent protrusion rising from the bottom surface.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.12.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 14.09.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2004-21216

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 14.10.2004

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-304590

(P2000-304590A)

(43) 公開日 平成12年11月2日 (2000.11.2)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

テーマコード (参考)

G 0 1 F 19/00

G 0 1 F 19/00

K

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-323077

(22) 出願日 平成11年10月8日 (1999.10.8)

(31) 優先権主張番号 特願平11-74243

(32) 優先日 平成11年2月15日 (1999.2.15)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 591212844

佐藤 順彦

神奈川県座間市相模が丘6丁目13-9

(72) 発明者 佐藤 順彦

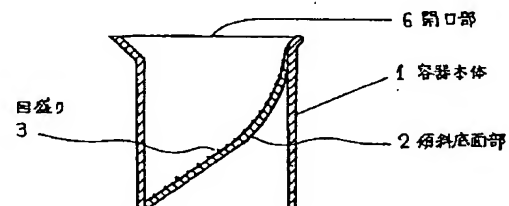
神奈川県座間市相模が丘6丁目13-9

(54) 【発明の名称】 メジャーカップ

(57) 【要約】

【課題】 メジャーカップに液体を測量しようと注ぎ込むときに、目盛りを見ていれば容器の外側に注ぎ外れることと、注ぎ込む先を見ていれば目盛り以上に入ることのないようにすること。

【解決手段】 容器本体1の底を傾斜させた傾斜底面部2や底から上向きに突出する突出底面部4を設けて、その傾斜した面に目盛り3を設ける。また、突出底面部4の頂点より開口部6に向けて柱体8を設けることや突出底面部4を底面から着脱自在の独立突出体5として形成することも出来る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 メジャーカップである容器本体（1）の底面を傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項2】 容器本体（1）の底面から内部に向けて突出した錐体、台形、斜めに裁断した柱体、などの突出底面部（4）を設け、その突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項3】 突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて柱体（8）を突設したことを特徴とする請求項2に記載のメジャーカップ。

【請求項4】 傾斜底面部（2）及び突出底面部（4）を、底面から着脱可能として分離と載置とが繰り返して出来る独立突出体（5）とした請求項1乃至請求項3記載のうちのいずれか1項に記載のメジャーカップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、メジャーカップの目盛りを見やすくし、計量しやすくしたメジャーカップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のメジャーカップに設けている目盛りは、透明な容器本体の側面に設けたものとしている。そして、容器内に注ぎ込まれる液体の量を測るときには、側面に施してある目盛りと注いだ液面縁とを、容器本体の外側となる横から見るものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のメジャーカップに液体を注ぐとき、目盛りと注ぎ込む開口部とを交互に見ながら測るため、目盛り以上に入れたり、開口部の外側に注ぎ込みを外したりすることが起きて測り直すという問題点があった。更に、容器本体を水平に保ちながら、その目盛りを見るのに顔を容器本体の横に近づけることは、測る人の姿勢や取り扱いにも問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、容器本体（1）の開口部（6）から注ぐ液体の流れ先を確認しながら目盛りが読み取れるように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）や突出底面部（4）には目盛り（3）を設けることとしているものであり、突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて目盛りのある柱体（8）を突設することもできる。このように、目盛り（3）を傾斜底面部（2）、突出底面部（4）及び柱体（8）に設けることにより、容器本体（1）の目盛りを外側から見ながら離れた位置になる注ぎ込む注ぎ口を見ることが難しくなくなり、目盛りの読み間違いと注ぎ外しとがなくなり、円滑な注ぎと測量とができるようになるものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明の一つの実施の形態として

は、図1に示すように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたものとしている。この傾斜底面部（2）は、凹状や凸状の曲面、多面状や階段状にすることが考えられるものであり、これらの傾斜底面部（2）を着脱可能なものにすることも考えられるものである。上記メジャーカップに液体を注ぎ込むときには、開口部（6）より傾斜底面部（2）に流れ落ち、傾斜底面部（2）の下端より次第に液体が溜まるにつれ、その液面は下の目盛り（3）から上の目盛り（3）へと移動する。この液面の移動は、開口部（6）から見る事が出来る、目盛り（2）を読むことも出来る。また、液体の流れ落ちる先が傾斜面のため、跳ね返ることもなく滑るように流れるので液面に波が立たず、注ぎ込み先、液面の縁、それに目盛り（3）が開口部（6）から覗き見ることが出来るので測量操作が容易であり、正確なものにもなり、測り直すことも無くなることになる。この容器本体（1）の下の目盛り（3）となる部分では、その一目盛りとなる容量が非常に少ないものとなるので、微量を測ることができる。

【0006】本発明の他の実施の形態となるメジャーカップとしては、図2に示すように、容器本体（1）の底面から内側に向けて突出した錐体となる突出底面部（4）を設け、その錐体状の突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けている。この底面より開口部（6）に向けて突出する突出底面部（4）の形状は、円錐や角錐などの錐体のほかに台形、柱体を斜めに裁断したものなどが考えられ、それらの側面を凹状や凸状の曲面にしたり、階段状にしたりすることが考えられるものである。そして、これらの頂点や最上部に凹部（7）を設けて微量を測るものとする事も考えられ、頂点から棒状や板状等の柱体（8）のものを開口部（6）に向けて設けることも考えられる。この柱体（8）を筒状にすることが考えられるものであって、図3に示すように、突出底面部（4）を底上げ状態として底下空間部（9）を設け、柱体（8）の先端から底下空間部（9）へと貫通状態にしたものは、これを逆さまにして、漏斗としても使用することが出来るものである。

【0007】これらの底部より突出させるて設ける傾斜底面部（2）や突出底面部（4）を、図4に示すように、底面から着脱可能として分離と載せ置きとが繰り返して出来る独立突出体（5）とすることが考えられる。この独立突出体（5）を容器本体（1）に入れたり出したりすることを容易にするため、独立突出体（5）の頂点から突設した柱体（8）を摘み棒して使うことが出来る。その摘み棒に目盛り（3）を設けることも出来る。従来のメジャーカップのように容器本体（1）の側面に目盛り（3）を設けているものに、本発明に係わる傾斜底面部（2）や突出底面部（4）の目盛り（3）を設けたものにしてもよい。このものは、外側と内側との二点による測量ができるものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 メジャーカップである容器本体（1）の底面を傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項2】 容器本体（1）の底面から内部に向けて突出した錐体、台形、斜めに截断した柱体、などの突出底面部（4）を設け、その突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項3】 突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて柱体（8）を突設したことを特徴とする請求項2に記載のメジャーカップ。

【請求項4】 傾斜底面部（2）及び突出底面部（4）を、底面から着脱可能として分離と載置とが繰り返して出来る独立突出体（5）とした請求項1乃至請求項3記載のうちのいずれか1項に記載のメジャーカップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、メジャーカップの目盛りを見やすくし、計量しやすくしたメジャーカップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のメジャーカップに設けている目盛りは、透明な容器本体の側面に設けたものとしている。そして、容器内に注ぎ込まれる液体の量を測るときには、側面に施してある目盛りと注いだ液面縁とを、容器本体の外側となる横から見るものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のメジャーカップに液体を注ぐとき、目盛りと注ぎ込む開口部とを交互に見ながら測るため、目盛り以上に入れたり、開口部の外側に注ぎ込みを外したりすることが起きて測り直すという問題点があった。更に、容器本体を水平に保ちながら、その目盛りを見るのに顔を容器本体の横に近ずけることは、測る人の姿勢や取り扱いにも問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、容器本体（1）の開口部（6）から注ぐ液体の流れ先を確認しながら目盛りが読み取れるように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）や突出底面部（4）には目盛り（3）を設けることとしているものであり、突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて目盛りのある柱体（8）を突設することもできる。このように、目盛り（3）を傾斜底面部（2）、突出底面部（4）及び柱体（8）に設けることにより、容器本体（1）の目盛りを外側から見ながら離れた位置になる注ぎ込む注ぎ口を見ることが難しくなくなり、目盛りの読み間違いと注ぎ外しとがなくなり、円滑な注ぎと測量ができるようになるものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明の一つの実施の形態として

は、図1に示すように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたものとしている。この傾斜底面部（2）は、凹状や凸状の曲面、多面状や階段状にすることが考えられるものであり、これらの傾斜底面部（2）を着脱可能なものにすることも考えられるものである。上記メジャーカップに液体を注ぎ込むときには、開口部（6）より傾斜底面部（2）に流れ落ち、傾斜底面部（2）の下端より次第に液体が溜まるにつれ、その液面は下の目盛り（3）から上の目盛り（3）へと移動する。この液面の移動は、開口部（6）から見る事が出来き、目盛り（2）を読むことも出来る。また、液体の流れ落ちる先が傾斜面のため、跳ね返ることもなく滑るように流れるので液面に波が立たず、注ぎ込み先、液面の縁、それに目盛り（3）が開口部（6）から覗き見ることができるので測量操作が容易であり、正確なものにもなり、測り直すことも無くなることになる。この容器本体（1）の下の目盛り（3）となる部分では、その一目盛りとなる容量が非常に少ないものとなるので、微量を測ることができる。

【0006】本発明の他の実施の形態となるメジャーカップとしては、図2に示すように、容器本体（1）の底面から内側に向けて突出した錐体となる突出底面部（4）を設け、その錐体状の突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けている。この底面より開口部（6）に向けて突出する突出底面部（4）の形状は、円錐や角錐などの錐体のほかに台形、柱体を斜めに截断したものなどが考えられ、それらの側面を凹状や凸状の曲面にしたり、階段状にしたりすることが考えられるものである。そして、これらの頂点や最上部に凹部（7）を設けて微量を測るものとする事も考えられ、頂点から棒状や板状等の柱体（8）のものを開口部（6）に向けて設けることも考えられる。この柱体（8）を筒状にすることが考えられるものであって、図3に示すように、突出底面部（4）を底上げ状態として底下空間部（9）を設け、柱体（8）の先端から底下空間部（9）へと貫通状態にしたものは、これを逆さまにして、漏斗としても使用することが出来るものである。

【0007】これらの底部より突出させるて設ける傾斜底面部（2）や突出底面部（4）を、図4に示すように、底面から着脱可能として分離と載せ置きとが繰り返して出来る独立突出体（5）とすることが考えられる。この独立突出体（5）を容器本体（1）に入れたり出したりすることを容易にするため、独立突出体（5）の頂点から突設した柱体（8）を摘み棒して使うことが出来る。その摘み棒に目盛り（3）を設けることも出来る。従来のメジャーカップのように容器本体（1）の側面に目盛り（3）を設けているものに、本発明に係わる傾斜底面部（2）や突出底面部（4）の目盛り（3）を設けたものにしてもよい。このものは、外側と内側との二点による測量ができるものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 メジャーカップである容器本体（1）の底面を傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項2】 容器本体（1）の底面から内部に向けて突出した錐体、台形、斜めに裁断した柱体、などの突出底面部（4）を設け、その突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けたことを特徴とするメジャーカップ。

【請求項3】 突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて柱体（8）を突設したことを特徴とする請求項2に記載のメジャーカップ。

【請求項4】 傾斜底面部（2）及び突出底面部（4）を、底面から着脱可能として分離と載置とが繰り返して出来る独立突出体（5）とした請求項1乃至請求項3記載のうちのいずれか1項に記載のメジャーカップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、メジャーカップの目盛りを見やすくし、計量しやすくしたメジャーカップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のメジャーカップに設けている目盛りは、透明な容器本体の側面に設けたものとしている。そして、容器内に注ぎ込まれる液体の量を測るときには、側面に施してある目盛りと注いだ液面線とを、容器本体の外側となる横から見るものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のメジャーカップに液体を注ぐとき、目盛りと注ぎ込む開口部とを交互に見ながら測るため、目盛り以上に入れたり、開口部の外側に注ぎ込みを外したりすることが起きて測り直すという問題点があった。更に、容器本体を水平に保ちながら、その目盛りを見るのに顔を容器本体の横に近づけることは、測る人の姿勢や取り扱いにも問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、容器本体（1）の開口部（6）から注ぐ液体の流れ先を確認しながら目盛りが読み取れるように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）や突出底面部（4）には目盛り（3）を設けることとしているものであり、突出底面部（4）の頂点より開口部（6）に向けて目盛りのある柱体（8）を突設することもできる。このように、目盛り（3）を傾斜底面部（2）、突出底面部（4）及び柱体（8）に設けることにより、容器本体（1）の目盛りを外側から見ながら離れた位置になる注ぎ込む注ぎ口を見ることの難しさがなくなり、目盛りの読み間違いと注ぎ外しとがなくなり、円滑な注ぎと測量とができるようになるものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明の一つの実施の形態として

は、図1に示すように、容器本体（1）の底面を上方に傾斜させ、その傾斜底面部（2）に目盛り（3）を設けたものとしている。この傾斜底面部（2）は、凹状や凸状の曲面、多面状や階段状にすることが考えられるものであり、これらの傾斜底面部（2）を着脱可能なものにすることも考えられるものである。上記メジャーカップに液体を注ぎ込むときには、開口部（6）より傾斜底面部（2）に流れ落ち、傾斜底面部（2）の下端より次第に液体が溜まるにつれ、その液面は下の目盛り（3）から上の目盛り（3）へと移動する。この液面の移動は、開口部（6）から見る事が出来き、目盛り（2）を読むことも出来る。また、液体の流れ落ちる先が傾斜面のため、跳ね返ることもなく滑るように流れるので液面に波が立たず、注ぎ込み先、液面の縁、それに目盛り（3）が開口部（6）から覗き見ることができるので測量操作が容易であり、正確なものにもなり、測り直すことも無くなることになる。この容器本体（1）の下の目盛り（3）となる部分では、その一目盛りとなる容量が非常に少ないものとなるので、微量を測ることができる。

【0006】本発明の他の実施の形態となるメジャーカップとしては、図2に示すように、容器本体（1）の底面から内側に向けて突出した錐体となる突出底面部（4）を設け、その錐体状の突出底面部（4）の側面に目盛り（3）を設けている。この底面より開口部（6）に向けて突出する突出底面部（4）の形状は、円錐や角錐などの錐体のはかに台形、柱体を斜めに裁断したものなどが考えられ、それらの側面を凹状や凸状の曲面にしたり、階段状にしたりすることが考えられるものである。そして、これらの頂点や最上部に凹部（7）を設けて微量を測るものとする事も考えられ、頂点から棒状や板状等の柱体（8）のものを開口部（6）に向けて設けることも考えられる。この柱体（8）を筒状にすることが考えられるものであって、図3に示すように、突出底面部（4）を底上げ状態として底下空間部（9）を設け、柱体（8）の先端から底下空間部（9）へと貫通状態にしたものは、これを逆さまにして、漏斗としても使用することが出来るものである。

【0007】これらの底部より突出させるて設ける傾斜底面部（2）や突出底面部（4）を、図4に示すように、底面から着脱可能として分離と載せ置きとが繰り返して出来る独立突出体（5）とすることが考えられる。この独立突出体（5）を容器本体（1）に入れたり出したりすることを容易にするため、独立突出体（5）の頂点から突設した柱体（8）を摘まみ棒して使うことが出来る。その摘まみ棒に目盛り（3）を設けることも出来る。従来のメジャーカップのように容器本体（1）の側面に目盛り（3）を設けているものに、本発明に係わる傾斜底面部（2）や突出底面部（4）の目盛り（3）を設けたものにしてもよい。このものは、外側と内側との二点による測量ができるものである。

【0008】

【発明の効果】この発明に係わるメジャーカップを使用するときには、開口部（6）から注ぎ込む液体の流れ落ちる先が見えると同時に目盛り（3）も見え、注ぎ込んだ液面に波が立たず、液面の縁と目盛り（3）とが見易いもので目盛りの読み間違いと注ぎ外しとがなくなる。また、微量の液体を、底に近いところや突出底面部（4）の頂点にある凹部（7）によって測ることもできる。液体ばかりでなく、粉体や粒体などを測ることができることは、当然である。

【図面の簡単な説明】

【図1】傾斜底面部を設けたメジャーカップを示す縦断面図である。

【図2】突出底面部を設けたメジャーカップを示す縦断面*

*面図である。

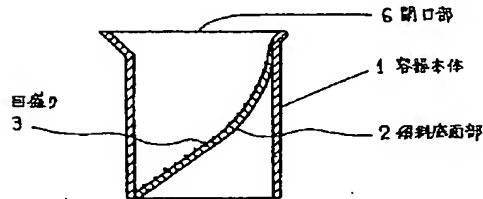
【図3】突出底面部に筒状柱体を設けたメジャーカップを示す縦断面図である。

【図4】独立突出体を示す斜視図である。

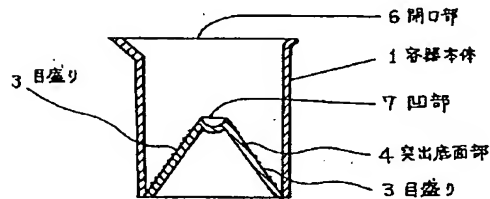
【符号の説明】

- 1 容器本体
- 2 傾斜底面部
- 3 目盛り
- 4 突出底面部
- 5 独立突出体
- 6 開口部
- 7 凹部
- 8 柱体
- 9 底下空間部

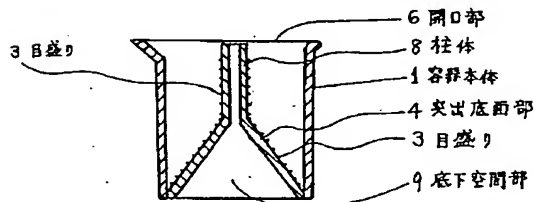
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

